

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

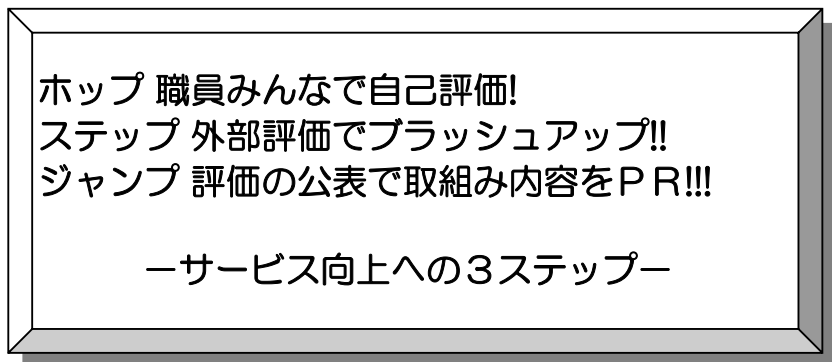
I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制



【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 10 月 13 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3890101854
事業所名 (ユニット名)	グループホーム One Life A
記入者(管理者) 氏名	堀 泰明
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 12 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の質の向上 共に生きる姿勢 信頼関係の確立 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な外出の機会が少なかったが、不定期であるが積極的に取り組めた。 ・職場会議において、事前に課題を集める事によって職員の意識が少し変わりケアの統一を図る事が出来た。 実践的な指導を行う事で、職員のスキルが上がると共に職員間の関係性にもいい方向に繋がった。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>コロナ禍の中で開設された事業所は、松山市郊外の幹線道路沿いに立地し、事業所周辺には、スーパーや飲食店が建ち並んでいるほか、田園風景も見られる。開設時から様々な制限が設けられ、可能な範囲で、敷地内を散歩したり、屋上にあるテラスで外気浴をしたり、感染状況を見計らいながら、ドライブをして花見に出かけるとともに、窓越しやオンラインの面会に対応するなど、職員は少しでも利用者が気分転換を図れるよう取り組んでいる。コロナ禍において、家族や地域との関わりが難しく、管理者は、「できることを模索しながら、繋がりを作っていききたい」と考え、試行錯誤をしながら、少しずつ地域交流などの広がりに努めている。また、介護業務の経験豊富な職員や初めて経験する職員など、様々な年齢で構成されているものの、お互いの業務を助け合いながら、管理者と職員同士がともに、話しやすい良好な関係が築かれ、安心して働くことができる環境整備が行われている。さらに、毎日脳トレや歩行、レクリエーションなどで身体を動かしたり、日常の調理や後片づけ、洗濯物たため、清掃などの役割を担ってもらったりするなど、利用者の残存能力を活かしながら、楽しみのある生活に繋がるとともに、職員は一人ひとりの一瞬を大切にして、利用者に寄り添った支援が行われている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	生活の中で発した利用者の希望を見逃さないようにして、それらを繋ぎ合わせて把握するよう努めている。	○	△	○	入居前に、職員は利用者や家族から、暮らし方の希望や意向の聞き取りをしている。入居後も、日々の関わりの中で、職員は利用者の気持ちに寄り添いながら、思いや要望を聞いた、表情やしぐさから思いをくみ取りするよう努めている。また、新たに知り得た情報は、アセスメントシートなどに記録に残すとともに、口頭で共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入所前の情報を基に、日々の関わりの中で利用者の表情やしぐさから検討している。	△	△	△	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	電話で問い合わせたり、家族来所時に伺っている。	△	△	△	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	各勤務のことは個人記録に記載し、定期的に入居者基本情報を見直している。	△	△	△	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	申し送り後に勤務者間で確認し、1回/月の職員会議、担当者会で話し合い議事録を残しておく。	△	△	△	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前、入居時に情報収集しておき、生活をしている中で確認を感じたことは、利用者や家族に伺っている。	△	△	○	入居前に、職員は利用者や家族から、これまでの暮らしの状況や生活状況などの聞き取りをしている。入居前に、利用していた介護サービス事業所から、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどを聞くこともある。また、アセスメントシートを活用して、利用者の性格や食の好みなどの把握に努めて記録に残すとともに、介護計画の期間に応じて、シートの内容の見直しを行い、情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前の情報を基に支援しているが、日々の生活の中で変化していることに気付けるよう努めている。	△	△	△	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	各利用者の日課に対応した個人記録用紙を作成して把握に努めている。	△	△	△	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	申し送り後に勤務者間で検討し業務に当たっている。	△	△	○	把握した情報をもとに、利用者が暮らししていく中で、職員はどのような支援を必要としているかを、利用者や家族、関係者の意見を踏まえて話し合い、利用者の視点での支援に繋げている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	勤務者間で検討して業務に当たり、業務で得たことを1回/月の職員会議、担当者会議で話し合い、本人の視点に近づけるよう努めている。	△	△	△	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の視点で出来る事を考えた計画が立てられるよう努めている。	△	△	○	より良く暮らすしていくための課題や支援内容を、利用者や家族、関係者、職員を交えて、担当者会議の中で話し合うとともに、意見を取りまとめて、各ユニットの計画作成担当者が介護計画を作成している。また、家族に介護計画の内容を確認してもらった場合には、追加事項や変更点を赤字で記載するなど、分かりやすく伝える工夫をしている。さらに、家族が会議に参加できない場合には、事前に職員が意見や要望の聞き取りをしているものの、「おまかせします」など、要望はほとんど出されない状況となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族には必要時間い合わせをしている。計画見直し時には希望を伺っているが、利用者との関わりが少ないため希望は少ない。	△	△	○	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居前の情報と、日々の生活の様子を考慮し、穏やかに過ごせる時間が続くよう努めている。	△	△	△	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	ほとんど出ていない。今後の課題。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	計画を作成する度に提示し、職員に確認してもらい、いつでも見直せる場所に保管してある。	/	/	/	介護計画は、休憩室等に配置され、利用者一人ひとりの目標やサービス内容などをいつでも確認できるようになっている。また、月1回モニタリングを行い、介護計画に沿ったサービスの実施状況を確認するとともに、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の1日の様子は、簡素化されて分かりやすい記録様式に記載され、状況を把握しやすくなっている。記録には職員の個人差が見られるため、全ての職員が統一した記載方法で記録できるように、内部研修の実施をしたり、職員間で話し合ったりするなど、より充実した計画と運動した記録が残ることを期待したい。今後は、職員の記録等の負担軽減を考えて、介護ソフトやタブレット等の導入を検討している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個別化した記録用紙に利用者の記録をし、計画担当以外の職員にもモニタリングしてもらい、会議で話し合い、次の支援につなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じた見直しをしている。	/	/	◎	介護計画は、短期目標等の期間に合わせて、見直しをしている。利用者毎の担当職員を中心に、月1回モニタリングを行い、利用者の現状を確認している。また、要介護度の変更や入退院など、利用者の状態に変化があった場合には、随時計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	1回/月モニタリングを行い確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	回数は少ないが、利用者に変化が生じた場合は計画を見直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職場会議は1回/月、担当者会議は1回/3ヶ月に開催し、緊急時はその場にいる職員で話し合い周知に努めている。	/	/	○	コロナ禍において、各ユニットに分かれて、月1回職員会議を実施している。会議では、管理者が内部研修の実施や必要事項の伝達を行うとともに、利用者の現状確認や情報共有のほか、職員間で課題などを話し合い、意識統一に努めている。また、ユニットの全ての職員が参加しやすい日時の設定を行い、ほとんどの職員が会議に参加することができている。さらに、参加できなかった職員は、議事録等で内容の確認をしている。加えて、緊急案件がある場合には、その時にいる職員で検討や対応をするとともに、話し合われた内容の伝達を行い、職員間で情報共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、誰でも意見が出せる職場環境作りを心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	シフトや当日の休憩の取り方、業務内容も必要なら変更し、会議を開催し、会議後に早急に周知が必要な事は申し送り、議事録を作成し提示している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	管理日誌、申し送りノート、個人記録を要約し申し送り、申し送り後不明な点は確認している。休日が続いた職員には自己でも記録を見て情報を得ておくように話している。	○	/	職員の出勤時等には、必ず申し送りノートで伝達事項等の確認を行うとともに、確認後には職員が署名を残し、職員間での情報共有に努めている。また、日々の管理日誌には、利用者一人ひとりの状態や伝達事項を要約した記録が残され、休日明けの職員も状況確認を行いやすくなっている。さらに、分からないことがある場合には、職員間で口頭で確認をすることもある。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日のコミュニケーションから把握し、行事とすり合わせながら、したいことを叶えるよう努めている。	/	/	/	日々のレクリエーションや散歩、脳トレ、調理の手伝い、洗濯物の取り込みなど、日常的に、職員は利用者へ声をかけて、その日にしたいことを自由に選んでもらい、思い通りの生活が送れるよう支援している。また、着る服や飲み物など、利用者へ好みなどの物などを選んでもらうなど、自己決定できるよう支援している。訪問調査日には、リビングで利用者と一緒に身体を動かしたり、住み慣れた地域の話をしてもらうなど、利用者や職員が明るく談笑している様子を見られ、何気ない出来事でも、利用者へ寄り添いながら、会話を大切に支援が行われている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日々、希望を表出出来る環境を作り、選択が多すぎて困惑しない程度の選択肢を提示出来るよう努めている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	業務遂行と利用者のペースをすり合わせながら支援に努めている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者の出来るに焦点を当てた言葉がけ、雰囲気作りに努めている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	職員間で共有して職員皆で支援出来るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声をしないよう配慮、自立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	定期的内部研修を行い、利用者を尊重する言葉かけや態度を意識して対応するように努めている。	◎	-	○	利用者の人権や尊厳について、職員は内部研修で理解を深め、日々配慮した支援が実践されている。また、管理者は排泄時に、利用者の羞恥心に特段の配慮を行い、職員には、周りにいる他の利用者へ気づかれないような声かけをするよう指導している。さらに、トイレ内には、扉付き収納が確保され、パッド類などの排泄用品を、あからさまに見えないように適切な収納が行われている。加えて、利用者の居室への入室時に、職員はノックや声かけをしてから、了承を得た上で入室するとともに、不在時に事前に利用者へ声をかけてから、入室するよう心がけている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	共用トイレを使用する為、常にトイレ誘導は配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者にお断りしたり、入室前には十分意識してもらおうお伝えしている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	重要性を理解し、退所後も遵守する契約をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者に教えて頂いている姿勢で接し、していただいた事に感謝を伝えている。				日々の生活の中で、利用者同士が言い合いなどのトラブルが起こりそうな場面が見られるものの、職員は利用者の性格や関係性を把握して、配席を考慮したり、早期に間に入ったりするなどの対応をしている。また、電子ピアノを弾く男性利用者を囲んで、他の利用者が歌を歌ったり、利用者同士が励ましの声をかけ合ったりするなど、相互の助け合いや支え合う場面も見られる。さらに、仲の良い利用者同士一緒に好きなことをできるように、職員は見守りながら、穏やかに楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ともに支え合っている関係を継続する大切さを理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	リビングで過ごす位置、順番、関わり方の量、質等、皆が穏やかに過ごせるよう配慮している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	当事者それぞれの話を傾聴し中立の立場で判断出来るよう努めている。周囲の利用者に影響しないよう配慮している。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居前情報と、日々の関わりの中で利用者から伺ったり、家族来所時に確認を取っているが、細かな把握には至っていない。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族の同意を取り、友人、知人が施設に会いに来てくださっている。こちらから出かける事は未だない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外気浴をしている程度。		△	-	コロナ禍の中で開設された事業所は、外出制限が設けられ、利用者の外出できる機会が限られている。職員は、できることに目を向けて、利用者が室内に閉じこもりがちなならないように、一歩でも屋外に出て、敷地内を散歩したり、屋上のテラスに出て、外気浴をしたりするなど、少しでも気分転換を図れるよう支援している。また、季節を感じられるような支援にも取り組んでおり、感染状況の落ち着きを見計らいながら、感染対策を講じた上で、順番に花見に出かけたり、ドライブに出かけて、車窓から海などの景色を楽しんでもらったりすることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会、研修会参加し知識習得の機会を持ち、支援に活かせるよう努めている。				利用者のできることやできそうなことに着目して、自身で食事や歯磨きをしてもらうほか、調理の手伝いや清掃などの役割を担ってもらい、職員は見守りや待つ支援に努めるとともに、一緒に行くこともある。また、体操や脳トレ、家事などの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持や活性化に努めている。さらに、歩行練習を行う利用者には、介護計画の目標やサービス内容に取り入れて、実施状況を全ての職員が確認できるようにしている。加えて、食事の際に、自分で食べやすい高さに調節して食器を置き、自身のペースでゆっくりと食事を摂っている利用者があり、職員は一人ひとりのできそうなことを把握して、実践できる環境の支援にも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々直面している事で、勉強会、研修会参加し知識習得の機会を持ち、支援に活かせるよう努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	計画書にあげてモニタリングすることで、利用者、職員ともにそれぞれの出来る事を行い、自己肯定感を維持出来る時間を共有している。		◎	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所前情報を基に活躍出来るよう支援し、回想法を活用しながら本人かの情報を得て、次に活かせるよう努めている。				洗濯物たたみや取り込み、清掃など、職員は利用者の得意なことやできそうなこと、やりたいことを聞きながら、積極的に役割や出番づくりを行い、担ってもらえるよう支援している。中には、調理が得意な利用者が、継続して調理を手伝ってもらったり、ピアノが得意な男性利用者に演奏してもらい、他の利用者が歌を歌ったりすることもできている。また、利用者役割や出番を担ってもらった場合には、職員から感謝の言葉を伝えることにより、やりがいや達成感、楽しみにも繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の関わりの中で、出来る事に目を向け、利用者一人一人が主役で過ごせるよう努めている。	○	-	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個別に対応し、把握出来るよう努めている。	/	/	/	毎朝、自分で服を選んで着替え、化粧などのおしゃれを楽しんでいる利用者もおり、服装や化粧などの乱れが見られた場合には、職員がさりげなくフォローをしている。管理者は、重度の利用者も含めて、全ての利用者の整容などの乱れや汚れが当たり前にならないように、職員には、毎日意識して気を配り、必要に応じて、対応するよう指導している。また、ケアを行う際にも、利用者のプライドを傷つけないような配慮を心がけた支援に努めている。さらに、全ての利用者が、髪型や服装、化粧などを行い、職員は本人らしさが保てるような支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	家族持参の服を居室タンスに収め、利用者の希望を取り入れて着用している。訪問散髪では希望の髪型を伝えカットして頂いている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	入所前情報を基に、家族来所時に追加情報を得ながら、利用者像を膨らませ、本人の気持ちに添えるよう支援に努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	外出の機会は殆ど無いが、衣替えは家族に連絡して行っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	自尊心に配慮しながら行っているが、突発的に声が出てしまう事があるので、その辺りは再度注意が必要である。	◎	-	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問理容を受けている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問散髪にて、姿勢保持しながら、髪型を整える施術をして頂いている。	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解出来ている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに進んでいる。	△	不定期に行っている。	/	/	○	食材は、週1回業者に配達してもらうほか、近隣の農家から、きゅうりやトマトなどの旬の野菜の購入を行い、各ユニットで、その日の冷蔵庫にある食材を確認して、利用者と相談しながら献立を決め、利用者に調理の下準備や後片付けなどを手伝ってもらいながら、職員と一緒に調理をしている。好みを取り入れた手作りの食事は、利用者に喜ばれている。食器類は、使い慣れた物を持参してもらうとともに、状態に応じて、使いやすい物を使用している。リビングに面したオープンキッチンで調理が行われているため、利用者は調理の匂いや音が感じられるとともに、職員はランチオンマットを敷いて、食事が待ちどおしくなるような雰囲気づくりに努めている。また、入居時に、利用者一人ひとりの食の好みや嫌いな物、アレルギーの有無などを確認するとともに、情報が記載されたアセスメントシートを活用して、職員間での把握が行われ、必要に応じて、代替品を用意するなどの対応をしている。食事の際に、コロナ禍の感染対策で、利用者と別々に食事を摂っているものの、職員はいつでも座り、見守りやサポートをしている。さらに、栄養士のアドバイスまでは受けたくないものの、定期的に体重の測定を行い、利用者の変化に留意しながら、栄養やバランス、嚥下状態などを職員間で話し合いをしている。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来た自信、達成感を得れるよう行動を見守り、さりげなく支援し、お礼を伝えている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前情報を基に、日々の関わりの中で情報を追加していきたい継続して把握に努めている。	/	/	/	
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	毎週、食材を注文し、近所の農家さんから野菜を購入している。窓際でプランターにて野菜栽培して献立に活かしている。季節料理、誕生日メニューを提供し、回話話を伺っている。	/	/	○	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	見た目も食欲に関わってくるため、個別的に食べやすく調理し、盛り付ける食器を選び、食器の位置、高さにも気を付けている。	/	/	/	
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	来所時は食器を持参して頂いている。日々の食事の様子から、もっと使いやすい食器の提供が出来ないか試行錯誤している。	/	/	○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員と一緒に食事は摂っていないが、椅子に座って利用者と同じ高さから利用者の食事を見守り、さりげなくサポートに入っている。	/	/	○	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ちどおしくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	五感で食事を感じて頂けるように、調理担当者、フロア担当者が努めている。	◎	/	◎	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個人記録表を作成し、1日量が確保出来るか確認しながら支援に努めている。	/	/	/	
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	個人記録表を作成し、必要量が摂れるよう引き継ぎながら、回数を増やしたり、時間を取ったりし、取り組んでいる。	/	/	/	
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士は居らず。献立表を作成し、調理担当者が確認し、献立が偏りがないようにしている。	/	/	○	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員は手洗いの励行。調理用具は調理後に洗浄消毒している。毎食前に利用者が食事に使うテーブルを消毒液で拭き、利用者も手指アルコール消毒している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会、職場会議の周知にて必要性は理解できている。				毎食後、職員は利用者へ声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや介助を行うとともに、歯間ブラシを使用して清潔保持に努めるなど、利用者の状態に合わせた口腔ケアの支援に努めている。また、日々の口腔ケア時に、職員は利用者一人ひとりの口腔内の確認を行うとともに、異常が見られた場合には、早期の訪問歯科の診療に繋げている。さらに、歯科医などのアドバイスをもらうほか、内部研修等で学び、職員は口腔ケアの重要性を理解している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	入居前状況にて把握し、毎食後の口腔ケア時に変化状況を観察している。					○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	一般的な指導は以前受けた。訪問歯科から定期的なケアに関するチラシは届き支援に活かしている。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後に義歯を外して洗浄し、就寝前に洗浄剤に浸けている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後に口腔ケアの時間を設け、ケアの声掛け、出来てない箇所の介助を行っている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会、研修会で利用者心理は理解出来ている。1回/月の職場会議で排泄対応の見直しを行っている。				事業所では、できる限りトイレでの排泄支援に努めている。現在は、全ての利用者がトイレで排泄を行うことができ、常時おむつを使用している利用者はいない。また、排泄チェック表で、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンなどを把握して、こまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、パッドの使用枚数が削減されたり、紙パンツから布パンツに変更したりすることのできた利用者もいる。さらに、利用者の排泄状況を確認して、適切な紙パンツやパッドなどの排泄用品の使用などを、職員間で話し合いをしている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会、研修会で理解している。便秘から来る利用者の個々の変化を職員で共有し、個々の原因に対しての支援対策中。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を作成し、パターンを把握し支援に努めている。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	出来る限りトイレで用が足されるよう、毎月の職員会議で個別に検討している。			◎		◎
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	必要時その時の職員で改善点を出し実施し、毎月の職員会議で検討している。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を用いて、自尊心に配慮しながら、早めの声掛けに努めている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	入所前に家族と相談した後、排泄状況の変化を見ながら、本人の使い勝手の良い物を検討している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	排泄自立度、介助の程度によって使い分けしている。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	チェック表に記載しながら、個々の水分摂取量を確認して、水分摂取を勧めたり、運動を取り入れたり、食事提供に組み込んでいる。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	曜日、時間帯、回数は利用者の習慣に添えていないが、入浴の長さ、温度は希望に添うよう努めている。			◎	○	週2回を基本に、利用者は入浴することができる。入浴の回数や曜日、時間帯は、事業所で決めているものの、利用者の希望に応じて、一番風呂などの入浴順や湯温、湯船に浸かる長さなどに、職員は柔軟に対応をしている。また、入浴が、利用者のリラックスや楽しみになるように、季節のゆず湯などに対応するほか、職員は利用者のベースに合わせた入浴支援を心がけている。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いをしないものの、人や時間帯を変えて声かけをするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個別で、個人のペースに合わせた支援に努めている。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で出来る入浴動作はしていただき、安全面を考慮しながら出来ないところを支援している。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	原因を除く対処を考えながら、声掛けに工夫したり、時間を取って声掛けたりして強制的にならないように努めている。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	引継ぎで状態を把握し、入浴介助を行い、入浴後はフロア担当者が状態を観察している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入所前情報を基に、日々の睡眠状態を個人記録しており把握に努めている。	/	/	/	事業所では、できる限り服薬に頼らず、日中の活動量を増やしたり、昼寝を取り入れたり、状況を医師に相談するなどの総合的な支援に努め、夜間に利用者が良眠できるよう努めている。中には、入居前から継続して眠剤などを服薬している利用者があるものの、職員は薬の効き過ぎなどの状態を確認するとともに、体調面を考えて、主治医の相談に繋げることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	入所前情報を確認しながら、日中の過ごし方を見て原因を探り、興味あるものを探り日中の活動に活かすよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	職員で対応を試みて、検討を重ねて、医師と相談するようにしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者ごとに休憩時間を設けて取り組んでいる。その日の体調をみて対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば対応している。着信、届いた手紙、品物はきちんと本人に取り次いでいる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	支援希望に応じている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望時に応じている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙を持つ本人の写真を差出人にお渡し出来るよう努めている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に入所時に説明して理解を得、機会ある事に協力依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解しているが、所持していない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物支援は出来ていない。必要な物は家族に買い物依頼している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を所持しておらず、支援出来ていない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	入居時に所持しないことの同意を得ている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	していない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人、家族のニーズに出来るだけ沿えるよう努めている。	◎	/	○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられているものの、管理者は、「可能な限り、利用者や家族の要望に柔軟に対応していきたい」と考えている。また、病院受診の通院介助が困難な家族には、職員が同行支援をしている。さらに、買い物の代行支援のほか、要望の出された電子ピアノなどの備品の購入に応じたこともある。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関にプランターで花を植え、不定期ではあるが植え替えをしている。	○	-	○	茶系をベースにした建物外観には、グループホームOne Lifeと事業所名が表記されるとともに、玄関入り口のドアはガラス部分が多く、内部の様子が見えやすくなっている。また、玄関周辺には手入れされた花のプランターが並べられ、家庭的で明るい雰囲気となるよう工夫されている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	玄関は生け花、観葉植物、階段、トイレには壁掛けがある。居室には、利用者が作成した季節行事の飾り付けである。居室には持ち込まれた思い入れのある品が置かれてある。	◎	-	○	明るいリビングに面したオープンキッチンから、職員は利用者の様子を見渡すことができる。廊下にはソファが置かれ、歩行練習の途中に、利用者が休憩スペースとして活用することもできる。また、壁には職員手作りの造花やグリーンのアレンジメントが随所に飾られ、利用者からも好評を得ている。さらに、浴室や水回りをはじめ、細やかな掃除が行き届き、共用部分は清潔感がある。加えて、1階のリビングの窓からは、田んぼの風景が見え、季節毎に眺めを楽しむことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	床掃除をし、汚れがあればその都度行っている。適宜換気を臭いには特に気を付けている。カーテンにて遮光調整をしている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節行事を回想しながら、食事、アクティビティで提供している。電子ピアノを設置して、利用者が伴奏されている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	廊下にソファ、椅子を設置し、思い思いに過ごして頂いている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に持参して頂いている。備え付けの家具はあるが、好みにレイアウトしていただいている。また思い入れのある物は家族に持参依頼している。	◎	/	○	居室には、ベッドやクローゼット、チェスト、エアコンが備え付けられている。また、使い慣れた家具や雑貨類、テレビなどの必要な物を持ち込むなど、快適な空間づくりをしている。さらに、家族の写真や利用者の好きな野球チームをモチーフにした職員手作りのメッセージカードなどが飾られている居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	事故防止のためフラットな床で横開きドア、手すりを設置して、分かりやすい表示を心掛けている。問題が生じたときはその都度検討している。	/	/	○	自分の居室の場所を迷う利用者には、居室の入り口に顔写真を貼り、認識しやすくしている。また、トイレの表示を利用者の目線に合わせて、見えやすい高さに設置するなど、利用者が混乱せずに生活を送りやすいよう工夫されている。さらに、居室にあるチェストにはラベルを貼り、衣類の分類を行いやすく、どこに入っているか分かりやすくしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	安全を優先しているが、見守りで使えるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	勉強会、研修会等で、利用者心理は理解している。利用者は無断退去し徘徊されるリスクもあり、家族同意の元に、施錠している。	x	-	△	日中には、玄関の施錠は行わず、夜間のみ、防犯のため施錠をしている。また、事業所の建物は、交通量の多い県道に面していることもあり、利用者の安全面を重視して、現在1階ユニット入り口は、常時施錠をしている。今までに、職員間で継続して鍵を開錠などの検討を行い、ドアセンサーを設置して対応するなどの考えたものの、解決策には至らず、家族に了承の上で、現状の施錠した状態のままとなっている。また、施錠することにより、不穏や混乱を招く利用者には、職員と一緒に外に出るなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	理解をいただけるよう、入居時、必要時話をしている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前情報を元にいつでも見れる場所に設置し、定期的に見直し差し替えている。日々の変化は記録に残し申し送り把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	勉強会、研修会等いつも違うサインの発見に努め、記録の重要性を理解し、残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事は気軽に相談出来るようお互いに日頃の関係性構築も心掛け、適切な対応が出来るように努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居前情報を基に今とこれからを支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	適切な医療が継続して受けられるよう、家族の意向をその都度確認し、主治医、担当医と調整している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	△	必要時に本人、家族と話し合い、通院方法、受診結果、結果の伝達、共有方法を決定している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	病院からも書面で情報提供希望があり、書面提示と共に出来るだけ口頭でも行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時はもとより、通院時から情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等へ伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	職場内に看護師がおり、相談出来ている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	施設内看護師は勤務時間内、管理者は24時間連絡体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタル測定を実施して、24時間通して状態を個人記録に記載している。医療連携体制を取っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個人別薬剤情報ファイルで、現在服用中の薬、今まで内服歴がいつでも閲覧できる。看護師から申し送り受け、本人の記録をしている。連絡は看護師がしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	きちんと服用出来るよう、作成時、保管時、服薬時、服薬後と複数のスタッフで確認している。問題が生じた時は話し合いを持ち服薬管理に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に確認を行い、スタッフ間で共有出来るよう記録に残し、引き継いでいる。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に看取りのあり方を説明し、同意を得ている。状態の変化ごとに話し合い、意向を確認している。				事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に、利用者や家族に対応できることを説明するとともに、段階に応じて説明を行い、意向を確認している。事業所では、看取り支援の体制を整え、希望のあった場合には、対応が可能となっている。開設して3年目ではあるものの、今までに、2名の看取り支援の経験があり、医師や看護師と連携を図りながら、利用者や家族の希望に寄り添う、終末期支援に取り組んでいる。また、利用者が重度化した場合には、意向に沿って、家族と医師、看護師等を交えて話し合い、方針を共有するとともに、チーム体制で支援が行われている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	その都度、担当した医療機関と話し合い、職員、家族、本人と情報共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者の状態、職員の対応力、協力態勢を見極めて体制を整えている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に説明し、医療機関からの治療方針が変更することに施設の対応能力を説明している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	チーム体制を整えている。経験を積み変化は出てくると考える。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	日頃の関わりを大切に考えて支援に努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職場の年間計画で勉強会を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルはあるが、訓練は出来ていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	△	必要時チェックしているので、いつも最新情報での対応は出来ていない。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	△	その都度流水による手洗いの励行をしている。マスク着用中にて職場内でのうがいは熱心に取り組めていない。施設来所時に足ふきマット、消毒液を設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人を共に支える同士であるよう務めている。	/	/	/	コロナ禍で開設した事業所は、開設当初から、面会などの制限が設けられ、家族が参加できる行事は、今まで実施されていない状況となっている。感染状況を見計らいながら、家族との密着しての面会ほか、オンラインの面会にも対応している。また、来訪時や電話連絡時を活用して、職員は家族に利用者の近況を伝えるとともに、2か月に1回利用者の様子を書いた手紙に、写真を添えて送付している。時には、利用者に自筆で、家族に手紙を書いてもらうなどの工夫をしている。家族の状況に応じて、SNSのメール等の機能を活用して、連絡を取り合う場合もある。ほとんど家族が来訪する機会が少ないため、利用者家族アンケート結果から、家族に事業所の出来事や職員の入退職などが十分に伝わっていないことが窺えるため、今後は、送付する手紙に添えて、事業所便りや事務連絡で、新人職員等を紹介したり、事業所の行事などの出来事を伝えたりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	出来ない。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	入居前にお話を伺い、計画書への家族意向伺いで、個別把握に努めている。来所時にお声掛け、1回/2ヶ月写真付きで近況報告を郵送している。また、メールでのやり取りをしている家族様もいる。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	支援に努めているがまだまだ結果に結びついていない。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事は「おたより」でしているが、他の報告は出来ない。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクから対応策までを個別に話をさせていただいて、理解を得ている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	来訪時にはお声掛けし、1回/2ヶ月、近況報告を発行しているが、まだ来所の積極的推奨はしていない。湯茶の準備、居室への宿泊対応は出来ない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	具体的に説明して、理解と納得を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	納得していただける支援をしている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階に説明しご理解を図った。	/	-	/	コロナ禍において、事業所は開設したため、地域と交流できる機会は限られているものの、町内会に入会するとともに、近隣の畑で野菜づくりをしている住民から、野菜を購入したり、秋祭りには神輿が来訪したりするなど、少しずつ交流が図れるよう努めている。管理者は、「地域との繋がりを作っていききたい」と考えている。また、事業所周辺には、店舗などの建物が多いものの、近隣には、比較的新しい分譲住宅地もあり、「最初のご近所づきあいの挨拶から、関わりを作っていききたい」と考えている。コロナ禍の収束後には、地域の民生委員などに協力してもらい、情報提供を得ながら、少しずつ、地域との交流が図られることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	町内会費は納め、近所の畑の野菜を購入させて頂いているが地域との繋がりは拡大していない。	/	-	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	△	立ち寄りはある。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	出来ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	日常的なおつきあひまでには至っていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	出来ない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	行っていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	家族、地域住民の参加はない。	×	/	△	コロナ禍において、事業所では、今までに外部の関係者が参加した集合形式の運営推進会議を実施することはできていない。会議の開催は、職員のみでの開催に留まっているため、市担当者等に報告して、意見をもらっているものの、書面開催においても、地域住民等の理解促進を図るとともに、地域包括支援センターや民生委員、法人内のグループホームなどの協力を得ながら、参加メンバーを募っていくことを期待したい。また、家族にも、分かりやすくまとめた運営推進会議録などを送付して確認してもらい、会議の存在や事業所内の様子を知らせてもらう機会に役立てることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	出来ていない。	/	-	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	シフトや当日の休憩の取り方、業務内容も必要なら変更し、会議を開催している。	/	-	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念は掲示しており、共通認識を持ち日常的に取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	分かりやすく伝えられていない。	△	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員のケアの実際と力量を把握し、研修の案内をしている。	/	/	/	代表者は、事業所に月1回程度の来訪があり、利用者や職員に声をかけるなどの関わりを持っている。職員は、代表者や管理者と話しやすく、良好な関係づくりが築かれている。訪問調査時の職員への聞き取りから、「待遇なども含めて、安心して働くことができる」などの話を聞くことができた。また、年間の研修計画を立てて、月1回内部研修を行い、職員のスキルアップに努めている。さらに、日頃から、職員から出された意見や要望は、必要に応じて、管理者を通して代表者に伝えるとともに、随時対応が行われている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	必要時取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	リモート会議に参加して、職員を県の研修会に参加できるよう努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	気軽に話が出来る関係性を持ち続けられるよう取り組んでいる。	○	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	勉強会・資料で理解出来るよう努めている。	/	/	○	定期的に行われる内部研修の中で、虐待防止などを学び、職員の理解促進に努めている。日頃から、管理者は不適切な言動について、どのような行為が該当するかを職員に伝えて、注意喚起を行うとともに、セルフチェックシート等を活用して、振り返りの機会を設けている。時には、あからさまな声や大きな声を出す職員も見られるため、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者が該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	出社時に巡回し、勤務者に声掛け現況把握に努め、1回/月の職場会議をして話し合いの場を設けている。不定期にセルフチェックをして振り返る機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日頃の関わりを大切に、いつもと違うことに注意している。状況みて個人面談をして考えや思いを聴き取っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会をし、理解に努めている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	委員会を開催し、開催後は全員に提示している。必要時1回/月の職場会議の議題にし話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	事業所の取り組みを説明して、理解を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	相談あれば対応出来るよう準備をしている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連携体制は築けていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成して周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は出来ておらず、全ての職員が実践力を身に付けていないが、応急手当などのマニュアルを作成している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット、事故報告書を積極的に記載提示し、対策を実践し再発防止に努めている。1回/月の職場会議で報告書の内容の検討し対策している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入所前情報を基に個別に対策を立て、生活をしながら見直している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成していつでも閲覧出来るようにしているが、検討は出来ていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情があった場合は速やかに対応出来るよう準備している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情があった場合は速やかに検討し、結果を伝え今後も前向きな関係が継続出来るよう図っていく。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	日頃から気軽に話が出来ると関係性を築くよう努めている。いつもと違う様子の時は特に気にかけて対応している。	○		○	職員は、利用者への声かけやコミュニケーションを大切に添った寄り添う支援に努めており、意見や要望を伝えやすい関係性が築かれている。意思表示が難しい利用者には、職員が表情やしぐさなどの観察を行い、思いなどをくみ取るよう心がけている。家族からは、来訪時や電話連絡時などを活用して、職員は意見や要望を聞くよう努めている。また、日頃から管理者は、職員との話しをする機会が多く設けられているほか、年2回個別面談を実施して意見を聞くとともに、職員向けアンケートの実施や職員の自己評価が行われている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に苦情投函箱を設置している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員ひとりひとりと言葉を交わすよう意識している。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	1回/月の職場会議で、職員から利用者の支援課題を出してもらい検討している。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	より良いサービスに繋げるための評価と理解し、自己評価にも取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、管理者を中心に取りまとめて作成をしている。また、評価結果と目標達成計画は、職員会議等で職員に伝えて、目標達成に向けて取り組んでいる。コロナ禍の収束後には、運営推進会議の中で、市担当者や地域包括支援センター、民生委員、家族などに、評価結果等を報告したり、モニターの目的や意義、取り組み状況を伝えながら、会議の参加メンバーや家族にモニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、職員間で話し合い新たな取り組みが行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえて目標達成に取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	実施出来ていない。	○	-	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内での確認はしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成し、玄関先に提示している。	/	/	/	事業所として、年2回様々な災害を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、集合形式の運営推進会議を開催することができていないため、コロナ禍の収束後には、会議の中で、家族や地域住民と災害への備えの話し合いをしたり、地域住民や家族に避難訓練の参加協力を呼びかけたりするなど、少しずつ、協力連携体制を築けることを期待したい。また、利用者家族アンケート結果から、コロナ禍でほとんど来訪する機会がないこともあり、家族に災害への備えの取組みが十分に伝わっていないことが窺えるため、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	想定を変え訓練を実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	定期的ではないが点検はしている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	体制確保は出来ていない。	×	-	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	取り組めていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	取り組めていない。	/	/	/	事業所は、近隣住民が来訪され、グループホームのことを聞きにきたことがあり、対応をしたこともある。相談や見学希望には、管理者等が快く対応をしている。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センターなどの会議や研修、地域イベントに参加する機会は少ないものの、連携を図ることができている。今後は、地域包括支援センターや他の介護サービス事業所等に、運営推進会議の参加メンバーの協力を呼びかけるなど、少しずつ連携の構築が図られることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行なえていない。	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	行なえていない。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 10 月 13 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3890101854
事業所名 (ユニット名)	グループホーム One Life B
記入者(管理者) 氏名	堀 泰明
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 12 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の質の向上 共に生きる姿勢 信頼関係の確立 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な外出の機会が少なかったが、不定期であるが積極的に取り組めた。 職場会議において、事前に課題を集める事によって職員の意識が少し変わりケアの統一を図る事が出来た。 実践的な指導を行う事で、職員のスキルが上がりと共に職員間の関係性にもいい方向に繋がった。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>コロナ禍の中で開設された事業所は、松山市郊外の幹線道路沿いに立地し、事業所周辺には、スーパーや飲食店が建ち並んでいるほか、田園風景も見られる。開設時から様々な制限が設けられ、可能な範囲で、敷地内を散歩したり、屋上にあるテラスで外気浴をしたり、感染状況を見計らいながら、ドライブをして花見に出かけるとともに、窓越しやオンラインの面会に対応するなど、職員は少しでも利用者が気分転換を図れるよう取り組んでいる。コロナ禍において、家族や地域との関わりが難しく、管理者は、「できることを模索しながら、繋がりを作っていききたい」と考え、試行錯誤をしながら、少しずつ地域交流などの広がりに努めている。また、介護業務の経験豊富な職員や初めて経験する職員など、様々な年齢で構成されているものの、お互いの業務を助け合いながら、管理者と職員同士がともに、話しやすい良好な関係が築かれ、安心して働くことができる環境整備が行われている。さらに、毎日脳トレや歩行、レクリエーションなどで身体を動かしたり、日常の調理や後片づけ、洗濯物たため、清掃などの役割を担ってもらったりするなど、利用者の残存能力を活かしながら、楽しみのある生活に繋げるとともに、職員は一人ひとりの一瞬を大切にして、利用者へ寄り添った支援が行われている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	生活の中で発した利用者の希望を見逃さないようにして、それらを繋ぎ合わせて把握するよう努めている。	○	△	○	入居前に、職員は利用者や家族から、暮らし方の希望や意向の聞き取りをしている。入居後も、日々の関わりの中で、職員は利用者の気持ちに寄り添いながら、思いや要望を聞いた、表情やしぐさから思いをくみ取りするよう努めている。また、新たに知り得た情報は、アセスメントシートなどに記録に残すとともに、口頭で共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入所前の情報を基に、日々の関わりの中で利用者の表情やしぐさから検討している。	△	△	△	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	電話で問い合わせたり、家族来所時に伺っている。	△	△	△	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	各勤務のことは個人記録に記載し、定期的に入居者基本情報を見直している。	△	△	△	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	申し送り後に勤務者間で確認し、1回/月の職員会議、担当者会で話し合い議事録を残しておく。	△	△	△	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前、入居時に情報収集しておき、生活をしている中で確認を感じたことは、利用者と家族に伺っている。	△	△	○	入居前に、職員は利用者や家族から、これまでの暮らしの状況や生活状況などの聞き取りをしている。入居前に、利用していた介護サービス事業所から、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどを聞くこともある。また、アセスメントシートを活用して、利用者の性格や食の好みなどの把握に努めて記録に残すとともに、介護計画の期間に応じて、シートの内容の見直しを行い、情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前の情報を基に支援しているが、日々の生活の中で変化していることに気付けるよう努めている。	△	△	△	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	各利用者の日課に対応した個人記録用紙を作成して把握に努めている。	△	△	△	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	申し送り後に勤務者間で検討し業務に当たっている。	△	△	○	把握した情報をもとに、利用者が暮らししていく中で、職員はどのような支援を必要としているかを、利用者や家族、関係者の意見を踏まえて話し合い、利用者の視点での支援に繋げている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	勤務者間で検討して業務に当たり、業務で得たことを1回/月の職員会議、担当者会議で話し合い、本人の視点に近づけるよう努めている。	△	△	△	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の視点で出来る事を考えた計画が立てられるよう努めている。	△	△	○	より良く暮らしていくための課題や支援内容を、利用者や家族、関係者、職員を交えて、担当者会議の中で話し合うとともに、意見を取りまとめて、各ユニットの計画作成担当者が介護計画を作成している。また、家族に介護計画の内容を確認してもらった場合には、追加事項や変更点を赤字で記載するなど、分かりやすく伝える工夫をしている。さらに、家族が会議に参加できない場合には、事前に職員が意見や要望の聞き取りをしているものの、「おまかせします」など、要望はほとんど出されない状況となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族には必要時間い合わせをしている。計画見直し時には希望を伺っているが、利用者との関わりが少ないため希望は少ない。	△	△	○	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居前の情報と、日々の生活の様子を考慮し、穏やかに過ごせる時間が続くよう努めている。	△	△	△	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	ほとんど出ていない。今後の課題。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	計画を作成する度に提示し、職員に確認してもらい、いつでも見直せる場所に保管してある。	/	/	/	介護計画は、休憩室等に配置され、利用者一人ひとりの目標やサービス内容などをいつでも確認できるようになっている。また、月1回モニタリングを行い、介護計画に沿ったサービスの実施状況を確認するとともに、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の1日の様子は、簡素化されて分かりやすい記録様式に記載され、状況を把握しやすくなっている。記録には職員の個人差が見られるため、全ての職員が統一した記載方法で記録できるように、内部研修の実施をしたり、職員間で話し合ったりするなど、より充実した計画と運動した記録が残ることを期待したい。今後は、職員の記録等の負担軽減を考えて、介護ソフトやタブレット等の導入を検討している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	1回/月モニタリングを行い確認している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じた見直しをしている。	/	/	◎	介護計画は、短期目標等の期間に合わせて、見直しをしている。利用者毎の担当職員を中心に、月1回モニタリングを行い、利用者の現状を確認している。また、要介護度の変更や入退院など、利用者の状態に変化があった場合には、随時計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	1回/月モニタリングを行い確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	回数は少ないが、利用者に変化が生じた場合は計画を見直ししている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職場会議は1回/月、担当者会議は1回/3ヶ月に開催し、緊急時はその場にいる職員で話し合い周知に努めている。	/	/	/	コロナ禍において、各ユニットに分かれて、月1回職員会議を実施している。会議では、管理者が内部研修の実施や必要事項の伝達を行うとともに、利用者の現状確認や情報共有のほか、職員間で課題などを話し合い、意識統一に努めている。また、ユニットの全ての職員が参加しやすい日時を設定を行い、ほとんどの職員が会議に参加することができている。さらに、参加できなかった職員は、議事録等で内容の確認をしている。加えて、緊急案件がある場合には、その時にいる職員で検討や対応をするとともに、話し合われた内容の伝達を行い、職員間で情報共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、誰でも意見が出せる職場環境作りを心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	シフトや当日の休憩の取り方、業務内容も必要なら変更し、会議を開催し、会議後に早急に周知が必要な事は申し送り、議事録を作成し提示している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	管理日誌、申し送りノート、個人記録を要約し申し送り、申し送り後不明な点は確認している。休日が続いた職員には自己でも記録を見て情報を得ておくように話している。	○	/	職員の出勤時等には、必ず申し送りノートで伝達事項等の確認を行うとともに、確認後には職員が署名を残し、職員間での情報共有に努めている。また、日々の管理日誌には、利用者一人ひとりの状態や伝達事項を要約した記録が残され、休日明けの職員も状況確認を行いやすくなっている。さらに、分からないことがある場合には、職員間で口頭で確認をすることもある。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日のコミュニケーションから把握し、行事とすり合わせながら、したいことを叶えるよう努めている。	/	/	/	日々のレクリエーションや散歩、筋トレ、調理の手伝い、洗濯物の取り込みなど、日常的に、職員は利用者へ声をかけて、その日したいことを自由に選んでもらい、思い通りの生活が送れるよう支援している。また、着る服や飲み物など、利用者へ好みなどを選んでもらうなど、自己決定できるよう支援している。訪問調査日には、リビングで利用者と一緒に身体を動かしたり、住み慣れた地域の話をしてしたりするなど、利用者や職員が明るく談笑している様子を見られ、何気ない出来事でも、利用者へ寄り添いながら、会話を大切に支援が行われている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択肢を作り、自己決定出来るような声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	業務遂行と利用者のペースをすり合わせながら支援に努めている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しかった時代を回想出来るような話題作りや、興味のあるレクリエーション等で活性化を図っている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	職員間で共有して職員皆で支援出来るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	定期的内部研修を行い、利用者を尊重する言葉かけや態度を意識して対応するように努めている。	◎	-	○	利用者の人権や尊厳について、職員は内部研修で理解を深め、日々配慮した支援が実践されている。また、管理者は排泄時に、利用者の羞恥心に特段の配慮を行い、職員には、周りにいる他の利用者へ気づかれないような声かけをするよう指導している。さらに、トイレ内には、扉付き収納が確保され、パッド類などの排泄用品を、あからさまに見えないように適切な収納が行われている。加えて、利用者の居室への入室時に、職員はノックや声かけをしてから、了承を得た上で入室するとともに、不在時に事前に利用者へ声をかけてから、入室するよう心がけている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	共用トイレを使用する為、常にトイレ誘導は配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者にお断りしたり、入室前には十分意識してもらおうお伝えしている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	重要性を理解し、退所後も遵守する契約をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者に教えて頂いている姿勢で接し、していただいた事に感謝を伝えている。	/	/	/	日々の生活の中で、利用者同士が言い合いなどのトラブルが起こりそうな場面が見られるものの、職員は利用者の性格や関係性を把握して、配席を考慮したり、早期に間に入ったりするなどの対応をしている。また、電子ピアノを弾く男性利用者を囲んで、他の利用者が歌を歌ったり、利用者同士が励ましの声をかけ合ったりするなど、相互の助け合いや支え合う場面も見られる。さらに、仲の良い利用者同士と一緒に好きなことをできるように、職員は見守りながら、穏やかに楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ともに支え合っている関係を継続する大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	レクリエーション等、行事を行う際は、利用者全員に声掛けをしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	当事者それぞれの話を傾聴し中立の立場で判断出来るよう努めている。周囲の利用者に影響しないよう配慮している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居前情報と、日々の関わりの中で利用者から伺ったり、家族来所時に確認を取っているが、細かな把握には至っていない。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族の同意を取り、友人、知人が施設に会いに来てくださっている。こちらから出かける事は未だない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外気浴をしている程度。	/	△	-	コロナ禍の中で開設された事業所は、外出制限が設けられ、利用者の外出できる機会が限られている。職員は、できることに目を向けて、利用者が室内に閉じこもりがちにならないように、一歩でも屋外に出て、敷地内を散歩したり、屋上のテラスに出て、外気浴をしたりするなど、少しでも気分転換を図れるよう支援している。また、季節を感じられるような支援にも取り組んでおり、感染状況の落ち着きを見計らいながら、感染対策を講じた上で、順番に花見に出かけたり、ドライブに出かけて、車窓から海などの景色を楽しんでもらったりすることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会、研修会参加し知識習得の機会を持ち、支援に活かせるよう努めている。	/	/	/	利用者のできることやできそうなことに着目して、自身で食事や歯磨きをしてもらうほか、調理の手伝いや清掃などの役割を担ってもらい、職員は見守りや待つ支援に努めるとともに、一緒に行くこともある。また、体操や脳トレ、家事などの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持や活性化に努めている。さらに、歩行練習を行う利用者には、介護計画の目標やサービス内容に取り入れて、実施状況を全ての職員が確認できるようにしている。加えて、食事の際に、自分で食べやすい高さに調節して食器を置き、自身のペースでゆっくりと食事を摂っている利用者があり、職員は一人ひとりのできそうなことを把握して、実践できる環境の支援にも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々直面している事で、勉強会、研修会参加し知識習得の機会を持ち、支援に活かせるよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	計画書にあげてモニタリングすることで、利用者、職員ともにそれぞれの出来る事を行い、自己肯定感を維持出来る時間を共有している。	/	◎	/	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所前情報を基に活躍出来るよう支援し、回想法を活用しながら本人かの情報を得て、次に活かせるよう努めている。	/	/	/	洗濯物たたみや取り込み、清掃など、職員は利用者の得意なことやできそうなこと、やりたいことを聞きながら、積極的に役割や出番づくりを行い、担ってもらえるよう支援している。中には、調理が得意な利用者が、継続して調理を手伝ってもらったり、ピアノが得意な男性利用者に演奏してもらい、他の利用者が歌を歌ったりすることもできている。また、利用者に出番や役割を担ってもらった場合には、職員から感謝の言葉を伝えることにより、やりがいや達成感、楽しみにも繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の関わりの中で、出来る事に目を向け、利用者一人一人が主役で過ごせるよう努めている。	○	-	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個別に対応し、把握出来るよう努めている。	/	/	/	毎朝、自分で服を選んで着替え、化粧などのおしゃれを楽しんでいる利用者もおり、服装や化粧などの乱れが見られた場合には、職員がさりげなくフォローをしている。管理者は、重度の利用者も含めて、全ての利用者の整容などの乱れや汚れが当たり前にならないように、職員には、毎日意識して気を配り、必要に応じて、対応するよう指導している。また、ケアを行う際にも、利用者のプライドを傷つけないような配慮を心がけた支援に努めている。さらに、全ての利用者が、髪型や服装、化粧などを行い、職員は本人らしさが保てるような支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	○	家族持参の服を居室タンスに収め、利用者の希望を取り入れて着用している。訪問散髪では希望の髪型を伝えカットして頂いている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	入所前情報を基に、家族来所時に追加情報を得ながら、利用者像を膨らませ、本人の気持ちに添えるよう支援に努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	外出の機会は殆ど無いが、衣替えは家族に連絡して行っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	自尊心に配慮しながら行っているが、突発的に声が出てしまう事があるので、その辺りは再度注意が必要である。	◎	-	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問散髪を受けている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問散髪にて、姿勢保持しながら、髪型を整える施術をして頂いている。	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解出来ている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	不定期に行っている。後片付けは利用者より声もかかり、一緒に行っている時もある。	/	/	○	食材は、週1回業者者に配達してもらうほか、近隣の農家から、きゅうりやトマトなどの旬の野菜の購入を行い、各ユニットで、その日の冷蔵庫にある食材を確認して、利用者と相談しながら献立を決め、利用者に調理の下準備や後片付けなどを手伝ってもらいながら、職員と一緒に調理をしている。好みを取り入れた手作りの食事は、利用者に喜ばれている。食器類は、使い慣れた物を持参してもらうとともに、状態に応じて、使いやすい物を使用している。リビングに面したオープンキッチンで調理が行われているため、利用者は調理の匂いや音が感じられるとともに、職員はランチオンマットを敷いて、食事が待ちどおしくなるような雰囲気づくりに努めている。また、入居時に、利用者一人ひとりの食の好みや嫌いな物、アレルギーの有無などを確認するとともに、情報が記載されたアセスメントシートを活用して、職員間での把握が行われ、必要に応じて、代替品を用意するなどの対応をしている。食事の際に、コロナ禍の感染対策で、利用者と別々に食事を摂っているものの、職員はいつでも座り、見守りやサポートをしている。さらに、栄養士のアドバイスまでは受けたくないものの、定期的に体重の測定を行い、利用者の変化に留意しながら、栄養やバランス、嚥下状態などを職員間で話し合いをしている。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来た自信、達成感を得れるよう行動を見守り、さりげなく支援し、お礼を伝えている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前情報を基に、日々の関わりの中で情報を追加いき継続して把握に努めている。	/	/	/	
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	毎週、食材を注文し、近所の農家さんから野菜を購入している。季節料理、誕生日メニューを提供し、回想話を伺っている。	/	/	○	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	見た目も食欲に関わってくるため、個別的に食べやすく調理し、盛り付ける食器を選び、食器の位置、高さにも気を付けている。	/	/	/	
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	来所時は食器を持参して頂いている。日々の食事の様子から、もっと使いやすい食器の提供が出来ないか試行錯誤している。	/	/	○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は一緒に食事は摂っていないが、椅子に座って利用者と同じ高さから利用者の食事を見守り、さりげなくサポートに入っている。	/	/	○	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	五感で食事を感じて頂けるように、調理担当者、フロア担当者が努めている。	◎	/	◎	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個人記録表を作成し、1日量が確保出来るか確認しながら支援に努めている。	/	/	/	
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	個人記録表を作成し、必要量が摂れるよう引き続きながら、回数を増やしたり、時間を取ったりし、取り組んでいる。	/	/	/	
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士は居らず、献立表を作成し、調理担当者が確認し、献立が偏りがないようにしている。	/	/	○	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員は手洗いの励行。調理用具は調理後に洗浄消毒している。毎食前に利用者が食事に使うテーブルを消毒液で拭き、利用者も手指アルコール消毒している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会、職場会議の周知にて必要性は理解できている。				毎食後、職員は利用者へ声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや介助を行うとともに、歯間ブラシを使用して清潔保持に努めるなど、利用者の状態に合わせた口腔ケアの支援に努めている。また、日々の口腔ケア時に、職員は利用者一人ひとりの口腔内の確認を行うとともに、異常が見られた場合には、早期の訪問歯科の診療に繋げている。さらに、歯科医などのアドバイスをもらうほか、内部研修等で学び、職員は口腔ケアの重要性を理解している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	入居前状況にて把握し、毎食後の口腔ケア時に変化状況を観察している。					○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	一般的な指導は以前受けた。訪問歯科から定期的なケアに関するチラシは届き支援に活かしている。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後に義歯を外して洗浄し、就寝前に洗浄剤に浸けている。義歯を装着していないと違和感がある利用者に対しては個別に対応している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後に口腔ケアの時間を設け、ケアの声掛け、出来てない箇所の介助を行っている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会、研修会で利用者心理は理解出来ている。1回/月の職場会議で排泄対応の見直しを行っている。				事業所では、できる限りトイレでの排泄支援に努めている。現在は、全ての利用者がトイレで排泄を行うことができ、常時おむつを使用している利用者はいない。また、排泄チェック表で、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンなどを把握して、こまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、パッドの使用枚数が削減されたり、紙パンツから布パンツに変更したりすることのできた利用者もいる。さらに、利用者の排泄状況を確認して、適切な紙パンツやパッドなどの排泄用品の使用などを、職員間で話し合いをしている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会、研修会で理解している。便秘から来る利用者の個々の変化を職員で共有し、個々の原因に対しての支援対策中。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を作成し、パターンを把握し支援に努めている。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	出来る限りトイレで用が足されるよう、毎月の職員会議で個別に検討している。		◎			◎
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	必要時その時の職員で改善点を出し実施し、毎月の職員会議で検討している。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を用いて、自尊心に配慮しながら、早めの声掛けに努めている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	入所前に家族と相談した後、排泄状況の変化を見ながら、本人の使い勝手の良い物を検討している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	排泄自立度、介助の程度によって使い分けしている。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	チェック表に記載しながら、個々の水分摂取量を確認して、水分摂取を勧めたり、運動を取り入れたり、食事提供に組み込んでいる。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	曜日、時間帯、回数は利用者の習慣に添えていないが、入浴の長さ、温度は希望に添うよう努めている。			◎	○	週2回を基本に、利用者は入浴することができる。入浴の回数や曜日、時間帯は、事業所で決めているものの、利用者の希望に応じて、一番風呂などの入浴順や湯温、湯船に浸かる長さなどに、職員は柔軟に対応をしている。また、入浴が、利用者のリラックスや楽しみになるように、季節のゆず湯などに対応するほか、職員は利用者のベースに合わせた入浴支援を心がけている。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いをしないものの、人や時間帯を変えて声かけをするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	個浴で、個人のペースに合わせた支援に努めている。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で出来る入浴動作はしていただき、安全面を考慮しながら出来ないところを支援している。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	原因を除く対処を考えながら、声掛けに工夫したり、時間を取って声掛けたりして強制的にならないように努めている。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	引継ぎで状態を把握し、入浴介助を行い、入浴後はフロア担当者が状態を観察している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入所前情報を基に、日々の睡眠状態を個人記録しており把握に努めている。	/	/	/	事業所では、できる限り服薬に頼らず、日中の活動量を増やしたり、昼寝を取り入れたり、状況を医師に相談するなどの総合的な支援に努め、夜間に利用者が良眠できるよう努めている。中には、入居前から継続して眠剤などを服薬している利用者があるものの、職員は薬の効き過ぎなどの状態を確認するとともに、体調面を考えて、主治医の相談に繋げることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	入所前情報を確認しながら、日中の過ごし方を見て原因を探り、興味あるものを探り日中の活動に活かすよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	職員で対応を試みて、検討を重ねて、医師と相談するようにしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者ごとに休憩時間を設けて取り組んでいる。その日の体調をみて対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば対応している。着信、届いた手紙、品物はきちんと本人に取り次いでいる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	支援希望に応じている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望時に応じている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙を持つ本人の写真を差出人にお渡し出来るよう努めている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に入所時に説明して理解を得、機会ある事に協力依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解しているが、所持していない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物支援は出来ていない。必要な物は家族に買い物依頼している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を所持しておらず、支援出来ていない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	入居時に所持しないことの同意を得ている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	していない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人、家族のニーズに出来るだけ沿えるよう努めている。	◎	/	○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられているものの、管理者は、「可能な限り、利用者や家族の要望に柔軟に対応していきたい」と考えている。また、病院受診の通院介助が困難な家族には、職員が同行支援をしている。さらに、買い物の代行支援のほか、要望の出された電子ピアノなどの備品の購入に応じたこともある。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関にプランターで花を植え、不定期ではあるが植え替えをしている。	○	-	○	茶系をベースにした建物外観には、グループホームOne Lifeと事業所名が表記されるとともに、玄関入り口のドアはガラス部分が多く、内部の様子が見えやすくなっている。また、玄関周辺には手入れされた花のプランターが並べられ、家庭的で明るい雰囲気となるよう工夫されている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	玄関は生け花、観葉植物、階段、トイレには壁掛けがある。居室には、利用者が作成した季節行事の飾り付けである。居室には持ち込まれた思い入れのある品が置かれてある。	◎	-	○	明るいリビングに面したオープンキッチンから、職員は利用者の様子を見渡すことができる。廊下にはソファが置かれ、歩行練習の途中に、利用者が休憩スペースとして活用することもできる。また、壁には職員手作りの造花やグリーンのアレンジメントが随所に飾られ、利用者からも好評を得ている。さらに、浴室や水回りをはじめ、細やかな掃除が行き届き、共用部分は清潔感がある。加えて、1階のリビングの窓からは、田んぼの風景が見え、季節毎に眺めを楽しむことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	床掃除をし、汚れがあればその都度行っている。適宜換気を臭いには特に気を付けている。カーテンにて遮光調整をしている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節行事を回想しながら、食事、アクティビティで提供している。壁面に季節を感じれたり、落ち着いた雰囲気でも過ごして頂けるよう工夫している。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	廊下にソファ、椅子を設置し、思い思いに過ごして頂いている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に持参して頂いている。備え付けの家具はあるが、好みにレイアウトしていただいている。また思い入れのある物は家族に持参依頼している。	◎	/	○	居室には、ベッドやクローゼット、チェスト、エアコンが備え付けられている。また、使い慣れた家具や雑貨類、テレビなどの必要な物を持ち込むなど、快適な空間づくりをしている。さらに、家族の写真や利用者の好きな野球チームをモチーフにした職員手作りのメッセージカードなどが飾られている居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	事故防止のためフラットな床で横開きドア、手すりを設置して、分かりやすい表示を心掛けている。問題が生じたときはその都度検討している。	/	/	○	自分の居室の場所を迷う利用者には、居室の入り口に顔写真を貼り、認識しやすくしている。また、トイレの表示を利用者の目線に合わせて、見えやすい高さに設置するなど、利用者が混乱せずに生活を送りやすいよう工夫されている。さらに、居室にあるチェストにはラベルを貼り、衣類の分類を行いやすく、どこに入っているか分かりやすくしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	安全を優先しているが、見守りで使えるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	勉強会、研修会等で、利用者心理は理解している。利用者は無断退去し徘徊されるリスクもあり、家族同意の元に、施錠している。	x	-	△	日中には、玄関の施錠は行わず、夜間のみ、防犯のため施錠をしている。また、事業所の建物は、交通量の多い県道に面していることもあり、利用者の安全面を重視して、現在1階ユニット入り口は、常時施錠をしている。今までに、職員間で継続して鍵を開錠などの検討を行い、ドアセンサーを設置して対応するなどの考えたものの、解決策には至らず、家族に了承の上で、現状の施錠した状態のままとなっている。また、施錠することにより、不穏や混乱を招く利用者には、職員と一緒に外に出るなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	理解をいただけるよう、入居時、必要時話をしている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前情報を元にいつでも見れる場所に設置し、定期的に見直し差し替えている。日々の変化は記録に残し申し送り把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	勉強会、研修会等いつも違うサインの発見に努め、記録の重要性を理解し、残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事は気軽に相談出来るようお互いに日頃の関係性構築も心掛け、適切な対応が出来るように努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居前情報を基に今とこれからを支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	適切な医療が継続して受けられるよう、家族の意向をその都度確認し、主治医、担当医と調整している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	△	必要時に本人、家族と話し合い、通院方法、受診結果、結果の伝達、共有方法を決定している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	病院からも書面で情報提供希望があり、書面提示と共に出来るだけ口頭でも行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時はもとより、通院時から情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	職場内に看護師がおり、相談出来ている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	施設内看護師は勤務時間内、管理者は24時間連絡体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタル測定を実施して、24時間通して状態を個人記録に記載している。医療連携体制を取っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個人別薬剤情報ファイルで、現在服用中の薬、今まで内服歴がいつでも閲覧できる。看護師から申し送り受け、本人の記録をしている。連絡は看護師がしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	きちんと服用出来るよう、作成時、保管時、服薬時、服薬後と複数のスタッフで確認している。問題が生じた時は話し合いを持ち服薬管理に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に確認を行い、スタッフ間で共有出来るよう記録に残し、引き継いでいる。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に看取りのあり方を説明し、同意を得ている。状態の変化ごとに話し合い、意向を確認している。				事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に、利用者や家族に対応できることを説明するとともに、段階に応じて説明を行い、意向を確認している。事業所では、看取り支援の体制を整え、希望のあった場合には、対応が可能となっている。開設して3年目ではあるものの、今までに、2名の看取り支援の経験があり、医師や看護師と連携を図りながら、利用者や家族の希望に寄り添う、終末期支援に取り組んでいる。また、利用者が重度化した場合には、意向に沿って、家族と医師、看護師等を交えて話し合い、方針を共有するとともに、チーム体制で支援が行われている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	その都度、担当した医療機関と話し合い、職員、家族、本人と情報共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者の状態、職員の対応力、協力態勢を見極めて体制を整えている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に説明し、医療機関からの治療方針が変更することに施設の対応能力を説明している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	チーム体制を整えている。経験を積み変化は出ると考える。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	日頃の関わりを大切に考えて支援に努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職場の年間計画で勉強会を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルはあるが、訓練は出来ていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	△	必要時チェックしているので、いつも最新情報での対応は出来ていない。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	△	その都度流水による手洗いの励行をしている。マスク着用中にて職場内でのうがいは熱心に取り組めていない。施設来所時に足ふきマット、消毒液を設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人を共に支える同士であるよう務めている。	/	/	/	コロナ禍で開設した事業所は、開設当初から、面会などの制限が設けられ、家族が参加できる行事は、今まで実施されていない状況となっている。感染状況を見計らいながら、家族との密着しての面会ほか、オンラインの面会にも対応している。また、来訪時や電話連絡時を活用して、職員は家族に利用者の近況を伝えるとともに、2か月に1回利用者の様子を書いた手紙に、写真を添えて送付している。時には、利用者に自筆で、家族に手紙を書いてもらうなどの工夫をしている。家族の状況に応じて、SNSのメール等の機能を活用して、連絡を取り合う場合もある。ほとんど家族が来訪する機会が少ないため、利用者家族アンケート結果から、家族に事業所の出来事や職員の入退職などが十分に伝わっていないことが窺えるため、今後は、送付する手紙に添えて、事業所便りや事務連絡で、新人職員等を紹介したり、事業所の行事などの出来事を伝えたりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	出来ない。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	入居前にお話を伺い、計画書への家族意向伺いで、個別把握に努めている。来所時にお声掛け、1回/2ヶ月写真付きで近況報告を郵送している。また、メールでのやり取りをしている家族様もいる。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	支援に努めているがまだまだ結果に結びついていない。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事は「おたより」でしているが、他の報告は出来ない。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクから対応策までを個別に話をさせていただいて、理解を得ている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	来訪時にはお声掛けし、1回/2ヶ月、近況報告を発行しているが、まだ来所の積極的推奨はしていない。湯茶の準備、居室への宿泊対応は出来ない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	具体的に説明して、理解と納得を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	納得していただける支援をしている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階に説明しご理解を図った。	/	-	/	コロナ禍において、事業所は開設したため、地域と交流できる機会は限られているものの、町内会に入会するとともに、近隣の畑で野菜づくりをしている住民から、野菜を購入したり、秋祭りには神輿が来訪したりするなど、少しずつ交流が図れるよう努めている。管理者は、「地域との繋がりを作っていききたい」と考えている。また、事業所周辺には、店舗などの建物が多いものの、近隣には、比較的新しい分譲住宅地もあり、「最初にご近所づきあいの挨拶から、関わりを作っていききたい」と考えている。コロナ禍の収束後には、地域の民生委員などに協力してもらい、情報提供を得ながら、少しずつ、地域との交流が図られることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	町内会費は納め、近所の畑の野菜を購入させて頂いているが地域との繋がりは拡大していない。	/	-	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	△	立ち寄りはある。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	出来ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	日常的なおつきあひまでには至っていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	出来ない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	行っていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	家族、地域住民の参加はない。	×	/	△	コロナ禍において、事業所では、今までに外部の関係者が参加した集合形式の運営推進会議を実施することはできていない。会議の開催は、職員のみでの開催に留まっているため、市担当者等に報告して、意見をもらっているものの、書面開催においても、地域住民等の理解促進を図るとともに、地域包括支援センターや民生委員、法人内のグループホームなどの協力を得ながら、参加メンバーを募っていくことを期待したい。また、家族にも、分かりやすくまとめた運営推進会議録などを送付して確認してもらい、会議の存在や事業所内の様子を知らせてもらう機会に役立てることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	出来ていない。	/	-	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	シフトや当日の休憩の取り方、業務内容も必要なら変更し、会議を開催している。	/	-	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念は掲示しており、共通認識を持ち日常的に取り組んでいる。	/	/	/	代表者は、事業所に月1回程度の来訪があり、利用者や職員に声をかけるなどの関わりを持っている。職員は、代表者や管理者と話しやすく、良好な関係づくりが築かれている。訪問調査時の職員への聞き取りから、「待遇なども含めて、安心して働くことができる」などの話しを聞くことができた。また、年間の研修計画を立てて、月1回内部研修を行い、職員のスキルアップに努めている。さらに、日頃から、職員から出された意見や要望は、必要に応じて、管理者を通して代表者に伝えるとともに、随時対応が行われている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	分かりやすく伝えられていない。	△	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員のケアの実際と力量を把握し、研修の案内をしている。	/	/	/	代表者は、事業所に月1回程度の来訪があり、利用者や職員に声をかけるなどの関わりを持っている。職員は、代表者や管理者と話しやすく、良好な関係づくりが築かれている。訪問調査時の職員への聞き取りから、「待遇なども含めて、安心して働くことができる」などの話しを聞くことができた。また、年間の研修計画を立てて、月1回内部研修を行い、職員のスキルアップに努めている。さらに、日頃から、職員から出された意見や要望は、必要に応じて、管理者を通して代表者に伝えるとともに、随時対応が行われている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	必要時取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	リモート会議に参加して、職員を県の研修会に参加できるよう努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	気軽に話が出来る関係性を持ち続けられるよう取り組んでいる。	○	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	勉強会・資料で理解出来るよう努めている。	/	/	○	定期的に行われる内部研修の中で、虐待防止などを学び、職員の理解促進に努めている。日頃から、管理者は不適切な言動について、どのような行為が該当するかを職員に伝えて、注意喚起を行うとともに、セルフチェックシート等を活用して、振り返りの機会を設けている。時には、あからさまな声や大きな声を出す職員も見られるため、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者が該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	出社時に巡回し、勤務者に声掛け現況把握に努め、1回/月の職場会議をして話し合いの場を設けている。不定期にセルフチェックをして振り返る機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日頃の関わりを大切に、いつもと違うことに注意している。状況みて個人面談をして考えや思いを聴き取っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会をし、理解に努めている。	/	/	/	定期的に行われる内部研修の中で、虐待防止などを学び、職員の理解促進に努めている。日頃から、管理者は不適切な言動について、どのような行為が該当するかを職員に伝えて、注意喚起を行うとともに、セルフチェックシート等を活用して、振り返りの機会を設けている。時には、あからさまな声や大きな声を出す職員も見られるため、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者が該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	委員会を開催し、開催後は全員に提示している。必要時1回/月の職場会議の議題にし話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	事業所の取り組みを説明して、理解を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	相談あれば対応出来るよう準備をしている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連携体制は築けていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成して周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は出来ておらず、全ての職員が実践力を身に付けていないが、応急手当などのマニュアルを作成している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット、事故報告書を積極的に記載提示し、対策を実践し再発防止に努めている。1回/月の職場会議で報告書の内容の検討し対策している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハット、事故報告書を積極的に記載提示し、対策を実践し再発防止に努めている。1回/月の職場会議で報告書の内容の検討し対策している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成していつでも閲覧出来るようにしているが、検討は出来ない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情があった場合は速やかに対応出来るよう準備している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情があった場合は速やかに検討し、結果を伝え今後も前向きな関係が継続出来るよう図っていく。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	日頃から気軽に話が出来る関係性を築くよう努めている。いつもと違う様子の時は特に気にかけて対応している。	○		○	職員は、利用者への声かけやコミュニケーションを大切にした寄り添う支援に努めており、意見や要望を伝えやすい関係性が築かれている。意思表示が難しい利用者には、職員が表情やしぐさなどの観察を行い、思いなどをくみ取るよう心がけている。家族からは、来訪時や電話連絡時などを活用して、職員は意見や要望を聞くよう努めている。また、日頃から管理者は、職員との話しをする機会が多く設けられているほか、年2回個別面談を実施して意見を聞くとともに、職員向けアンケートの実施や職員の自己評価が行われている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に苦情投函箱を設置している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員ひとりひとりと言葉を交わすよう意識している。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	1回/月の職場会議で、職員から利用者の支援課題を出してもらい検討している。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	より良いサービスに繋げるための評価と理解し、自己評価にも取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、管理者を中心に取りまとめて作成をしている。また、評価結果と目標達成計画は、職員会議等で職員に伝えて、目標達成に向けて取り組んでいる。コロナ禍の収束後には、運営推進会議の中で、市担当者や地域包括支援センター、民生委員、家族などに、評価結果等を報告したり、モニターの目的や意義、取り組み状況を伝えながら、会議の参加メンバーや家族にモニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、職員間で話し合い新たな取り組みが行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえて目標達成に取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	実施出来ない。	○	-	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内での確認はしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成し、玄関先に提示している。	/	/	/	事業所として、年2回様々な災害を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、集合形式の運営推進会議を開催することができていないため、コロナ禍の収束後には、会議の中で、家族や地域住民と災害への備えの話し合いをしたり、地域住民や家族に避難訓練の参加協力を呼びかけたりするなど、少しずつ、協力連携体制を築けることを期待したい。また、利用者家族アンケート結果から、コロナ禍でほとんど来訪する機会がないこともあり、家族に災害への備えの取組みが十分に伝わっていないことが窺えるため、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	想定を変え訓練を実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	定期的ではないが点検はしている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	体制確保は出来ていない。	×	-	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	取り組めていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	取り組めていない。	/	/	/	事業所は、近隣住民が来訪され、グループホームのことを聞きにきたことがあり、対応をしたこともある。相談や見学希望には、管理者等が快く対応をしている。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センターなどの会議や研修、地域イベントに参加する機会は少ないものの、連携を図ることができている。今後は、地域包括支援センターや他の介護サービス事業所等に、運営推進会議の参加メンバーの協力を呼びかけるなど、少しずつ連携の構築が図られることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行なえていない。	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	行なえていない。	/	/	○	